

かがやきプラス 小学生 家庭版



テーマ 持ち続けよう 子どもとともに学ぶ姿勢

コミュニケーションと食事

金沢学院短期大学 食物栄養学科 教授 もろおか こうさい 諸岡 康哉

コミュニケーション能力の重要性

現代ほどコミュニケーション能力が必要となってきた社会はないといえます。モノづくりから対人サービスを中心とする第三次産業へと構造変化することによって、コミュニケーション能力を必要とする社会となってきたからです。企業での新卒採用の選考でも、「コミュニケーション能力」を重視するという企業が9割近くにのぼってきています。すでに文部科学省においても「コミュニケーション教育推進会議」を設置し、コミュニケーション能力の重要性やその育成についての議論が進められてきています。



一人での食事

家庭での子どものコミュニケーション能力の育ちはどうでしょうか。現代社会では親の勤務時間が多様化し、子どもも習い事などが増えることで、家族

一人ひとりの生活時間が分散してきました。なにかをともにする機会が少なくなり、コミュニケーションが減少してきているのが現状です。毎日の食事ですえ全員が揃うことが困難になってきています。かなり以前から子どもが一人で食事をする「個食」「孤食」が問題とされてきました。



家族との食事

長い間サルやゴリラを実地で研究してきた霊長類学者の山極壽一さんやまぎわじゅいち(現・京都大学総長)は、家族で食べることの重要性を以前から指摘されています。仲間と一緒に食事をするのはヒト・人間に見られる大きな特徴だとされています。人間以外の霊長類にとって食べ物仲間との間に喧嘩を起こすものとなり、サルたちはトラブルを避けるために互いに離れて個体単位で採食しようとするそうです。

なるべく顔を合
わさないように背
を向け合って餌を
食べているサルの
食事風景はおなじ
みだと思えます。



人間は自然の食
物をその場で食べず、自分に必要な量より多くの食
物を集めて仲間のもとへ持ち帰り、一緒に食べ、か
つ仲間と向かい合って食事をしてきました。子ども
は食卓を囲んで食事をする中で、みんなと同じもの
を食べ、みんなの気を損ねないように手を出し、取
る順番を考えたり食物の交換をしたりしながら共感
の能力を育ててきたのです。このように他者に共感
して生きる力は、主として家族によって生まれ、そ
の中でも「食事」に注目しているのです。

されど食事

食事の重要性は生活習慣の形成や栄養補給の観点
から、「早寝・早起き・朝ごはん」や「食育」という

- 言い方でとりあげられてきました。こういった観点に加えて、食事は、子どもに人間独自の共感の能力やコミュニケーション能力もつけていることを見落としてはいけないでしょう。

また、テレビドラマでよくみかける刑事の「取り調べ」にある典型的な対面関係ではなく、食事でのコミュニケーションは、横の関係、並行関係で行われるためお互いの心を開きやすくします。子どもが親に本音を語るときは対面関係でなく、一緒に活動をしている横の関係の場合においてだと言われます。

- 子どもたちと「いただきます」をして一緒に食べることを日課にしていくと、席についていない子どもが気になる、話題になります。そのことが家族を互いに理解していくことにつながっていくのです。

このように考えれば、家族と一緒に食卓を囲むことは、子どもが共感して生きること、人間らしく育っていくことの土台になっていきます。たかが食事ではなく、されど食事という視点で考えていきたいものです。毎日は無理でも、週に数回は子どもたちと一緒に食卓を囲むことが大事ではないでしょうか。



我が家の「子どもとともに学ぶ姿勢」

子の姿勢は、親の鏡

(小4女子の母)

私はフルタイムで仕事をしているため、娘と触れ合う時間が短いです。宿題をじっくり見てあげる時間がなく、家事をこなすことで精一杯です。そのような環境の中、娘は家族の一員として自らお手伝いをしています。食器を並べることから始まり、今は積極的に料理に参加しています。こぼすなどの失敗はよくありました。それでも娘は、めげずに仕事を見つけお手伝いを続けています。私も娘の力が必要だったので、励まし続けました。「大切な家族の一員」という認識をもって子どもと接すると、子どもは自ら行動する力が育っていくのだと思いました。そして、「おかげで助かったよ。ありがとう」を伝えること。「役に立ってよかった」という気持ちの積み重ねが、次への意欲につながるということを、娘の姿から学びました。

本当はもっとゆっくり娘と触れ合いたいけれど、仕事も疎かにしてはいけないという葛藤をずっと抱えてきました。しかし、触れ合う時間は短いけれど、私の頑張る背中なら見せることができます。娘は小さい頃から、私が一生懸命働く姿を見ています。私が社会に出て学んできたことを、言葉や行動で娘に伝えていくことは、いつか娘の生き方の道標になると信じています。どんな目標でもいい。親がそれに向かって努力する姿勢が、子どもの学ぶ姿勢につながる気がします。

子どもが自ら学び、考える環境づくり

(小5男子、小3男子の父)

子どもが自ら学び、考える姿勢を持つように、我が家で実践していることを4つ紹介します。

1つ目は、「リビングでの学習」です。分からないところがあれば、下の子が上の子に聞いたり、親に聞いたりしています。その中で、子どものつまずきや成長に気づき、「こんなに難しいこともできるようになったのか」「頑張っているね」と、その場で褒めています。

2つ目は、「幼児期から使っている本棚」です。妻は、幼児期から低学年くらいまで、絵本の読み聞かせをしていました。寝る前になると、「今日はこれ読んで」と、リビングにある本棚から自分で持ってきていました。成長とともに、本の種類が増え、今では何か調べたいときに自分で取り出して読んでいます。

3つ目は、「朝の学習」です。我が家は共働きで、子どもの登校の前に出勤します。子どもは朝食から登校までの間に、宿題以外の自主学習に取り組んでいます。このプラスαの学習に、「お父さんが小さい頃は絶対にできなかったな」と、我が子ながら感心しています。

4つ目は、「長期休みの利用」です。夏休みには、子どもと一緒に科学研究や「発明工夫展」に向けた作品作りに時間をかけて取り組んでいます。学校での学びを超えており、親も一緒に悩みます。「お父さん、こうしたらどうかな?」「おっ、いい考えだな」と、子どもの発想の豊かさに驚かされます。大人も新しい発見がたくさんあり、子どもと一緒に学ぶことがとても楽しいです。

『家庭で子どもを育むための「8つのすすめ」実践セミナー』開催報告



基礎力財団理事長・
陰山ラボ代表
かげやま ひでお
陰山 英男 氏

7月21日(土)金沢歌劇座にて、『家庭で子どもを育むための「8つのすすめ」実践セミナー』を開催しました。まず、「8つのすすめ」の実践発表として、大浦小学校父親会(パパス&ママスクラブ)より「パパス&ママス 活動体験記」の発表、浅野町小学校父親会(愛と夢の会)より「加賀レンコン収穫と調理体験」の発表がありました。お父さんたちが地域の子どものために工夫した活動の発表は、パワーあふれる充実した内容でした。

その後、陰山英男氏のご講演がありました。「子どもの幸せのために親ができること」と題し、近い将来起こるであろうシンギュラリティ(人類が変わり、人工知能などが文明の進歩の主役に踊り出ること)に対し、家庭教育の中で配慮していきたいことを、講師の実体験も交えて講演していただきました。「徹底反復は脳力を高める、勉強とは脳を上手に使うトレーニングであり、集中する練習である」というお考えのもと、家庭での勉強を支える、学習習慣、学習環境、睡眠、食事、読書について調査統計を基に学力との関係を示されました。

家庭教育の大切さを改めて確認するセミナーとなりました。

家庭教育に関する指針 「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」

家庭は教育の出発点であり、子どもの心のよりどころです。子どもが安らぎを感じながら健やかに成長できるよう、かつて大人自身が家族のふれあいの中から教わった「大切なこと」を、子どもに伝えましょう。

1 持ち続けよう
子どもとともに **学ぶ姿勢**

子どもががんばったことは大いにほめて、お手伝いや学習、読書などに自ら取り組む意欲を伸ばすとともに、大人も「気づき」や「学び」を得る機会を持ちましょう。

2 きちんと守ろう
社会のルール 大人が手本

「子は親を映す鏡」、大人の行動を見ています。自らの行いを通じて、礼儀やマナー、言葉づかいを教え、良くないことはきちんと叱って善悪の判断ができるようにしましょう。

3 声かけよう
笑顔であいさつ 朝一番

自分からあいさつすることで会話が生まれ、家族の絆が強くなるとともに、地域の輪も広がります。笑顔のあいさつに心がけましょう。

4 創ろう
あたたかい家族のふれあい

子どもに笑顔で接し、心によりそい共感すると、子どもは安心感を持ち、前向きに考えることができます。家族のふれあいや会話を大切にしましょう。

5 大切にしよう
思いやりの心 すべての命

子どもが受けた思いやりは、子ども自身の思いやりの心、ゆずりあいの心につながります。自分や他者の生命の尊さを伝えましょう。

6 伝えよう
心のこもった「ありがとう」

「ありがとう」と言われたうれしさは、人やものに感謝する心を育みます。日頃から、子どもに感謝の言葉を伝えましょう。

7 育もう 子どもの健康
「早寝 早起き 朝ごはん」

規則正しい生活リズムと食習慣は、一日のやる気と元気の源です。基本的な生活習慣と外遊びや運動で、たくましい心と体を育みましょう。

8 支えよう
子どもの夢と可能性

家族は子どもの一番の応援団です。いろいろな体験を通してチャレンジ精神やあきらめない心を育み、夢に挑戦する姿勢を温かく見守りましょう。

家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ 研修相談センター 子ども総合相談センター	①おはなし電話	子どもの発達や学校生活、子育てなどに関する相談に応じます。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-0874
	②子ども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.0120-92-8349
	③いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-1019
金沢市児童相談所	④虐待通報	子どもの虐待に関する通報を24時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤児童相談所	18歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、非行、育成、虐待等です。(平日9:00～17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市児童家庭相談室	経済的に困っている家庭の子どもに関する相談や、ひとり親家庭の相談に応じます。 (平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2422
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーターが相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2441

いつでもどこでも家庭教育の情報が手に入るホームページ「かなざわ家庭教育サイト」を開設しました。

詳しくは、「金沢 家庭教育」で検索!

金沢 家庭教育

URL
https://www4.city.kanazawa.lg.jp/39026/katei_1.html



〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1
金沢市教育委員会生涯学習課
Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488
E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp